



民間だから出来る取組み

安田657-2 風呂迫聖吾さん

いま、定年を迎える団塊世代を中心に、「田舎暮らしをした

い」という関心が高まっています。こうした要望には、花が綺麗で果物が美味しく、人情と自然が豊かな世羅高原が一番と思われる人は沢山おられると思います。

都市と農村の交流を促進する目的で建設された施設は、公設がほとんどです。このような施設は多くの法的規制があります。

都市と農村の交流 新たな挑戦

風呂迫さんは、そんな施設を、純粹に知恵を生かして「やすだの郷」6棟を民営で建設されました。施設のモデルは、ある企業から届いたメールが参考で、(ドイツ語で)「クラインガルテン」「小さな庭」を意味する市民農園の記事が目にとまり、翌日から奥様と施設見学を繰り返し。町や県に相談するなどして、今日の施設に到着されたそうです。施設は長期滞在に備え、キッチン、トイレ・バスルーム、ロフトが完備されています。

この施設では、公営にない永年居住、永年作物栽培が可能になるなど自由な発想も出来ます。

また、現在の2部屋タイプ6棟に加

え、1部屋タイプ3棟の新しい施設を建設中で2月から公募されるそうです。

この施設は、「いきなり民家を改造して本格的に農業に取り組む」と言うのではなく、別荘感覚で野菜や花や果樹を育て土日を過ごす。お孫さんを誘って一緒に遊ぶなど、自由に過す夢が膨らみます。

今年は、幸水農園の梨オーナー制度を利用した収穫祭や、さらに野菜自慢コンテスト。地域の農家との交流イベントなど年間を通して交流を深めたいと抱負を話されました。

(福田義人)



別荘感覚で田舎暮らしを！「やすだの郷」

表紙紹介



この表紙は、昨年11月に行われた「けんみん文化祭ひろしま和太鼓フェスティバル」に津久志小学校の全校児童19名が参加した時の写真です。学校では、この「つくし太鼓」を、子どもの表現力を育成すること、忍耐力をつけ、我慢強い精神力を養うこと、そして、地域の活性化を図り、学校の誇りとすることをねらいとして取り組まれています。

編集後記

広報委員も改選され、このメンバーで編集した議会だよりをお届けして丸一年が経過しました。

この間わかりやすく、皆様が読みたくなるような議会便りにするために、委員一同研修を重ね、紙面の刷新をしてきました。

議会便りは、原稿

のほとんどを議員自らが書き、編集しています。まだまだ改善の余地があると思います。議会の活性化がより一層求められている時代に、町民と議会のパイプ役を担えるよう研鑽を重ねてまいります。皆様のご意見を寄せて頂ければ幸いです。(福田義人)

議会を傍聴してみませんか 次回の定例会は3月です

日程は無線放送でお知らせします。
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

議会広報公聴
調査特別委員会

委員長／福田 義人
副委員長／松本 秀治
委員／西田美喜男・安佐 長秀
福田 豪・奥田 正和

議員の寄附は罰則をもって禁止されています。議員に寄附を求めることも禁止されています。
年賀状など(答礼のための自筆によるものを除く)を出すことも禁止されています。